

町立金山診療所は 無床化に向け準備を進めています

(注意) 無床化とは、診療所にベッドを置かず入院施設を設置しないことです

① はじめに

医療機関の役割は、何と言っても利用される方々を中心に考えて、責務を果たしていくことが大事だと考えます。その上で、健康を保持する観点に立ち、これまでも、予防治療や疾病の改善に向けた医療を提供してきた「町立金山診療所」を運営する町として、可能な限り有床のまま継続することが最善であると考えています。

しかしながら、全国の医療機関で医師・看護師・医療従事者が不足していることはご存知のことと思いますが、わが町も同じ悩みを持ち、喫緊の課題となっていました。

特に、町立金山診療所の看護職員は、今年度から3年間において5名退職することから、山形大学医学部附属病院はじめ、山形県などと情報収集並びに看護師養成機関にも受験の周知を願い補充に努めてきましたが、応募もなく確保に苦慮している状況に変わりありません。

② 今後の方向性

この状況の中では、有床の診療所である町の医療機関が、入院や外来診療の場において「医療事故」がない診療を継続することは、困難と判断せざるを得ませんでした。

現時点でも有床にこだわりはありますが、今後は、有床をやむなく断念し、標榜する診療科目(内科・外科・小児科・疼痛外来)の確保と、訪問看護体制の強化や、医療連携を関係機関に要請して、町民の皆さんの健康づくりを目指さなければならないと判断いたしました。

③ 無床化の時期

令和3年4月1日を切り替えの時期とすることで、町民の皆様のご理解をお願いいたします。また、町民の皆様が不安を抱かないよう最善を尽くして参ります。

④ 経営面

町は、これまで町立金山診療所(国民健康保険特別会計直営診療施設勘定予算)に対し、町議会の場で議決を頂き、繰出金の支出にご理解をいただいております。

診療所に対する地方交付税交付金による国からの支援は、現時点で約5,550万円であり、町の一般財源は、約1億4,540万円となっております。

今後、無床化を予定している令和3年度においては、地方交付税交付金による支援は約2,000万円に減少し、一般財源による繰り出しは約1億3,160万円になる見込みです。

今後は、無床化により不用となる3階についても有効活用を検討して参りますのでご理解くださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ】

町立金山診療所 ☎52-2915